


高知大学における 新たな分野横断型教育プログラム ～土佐さきがけプログラム(TSP)～



高知大学理事・副学長(教育担当)
深見公雄

自己紹介



名前: 深見公雄 (ふかみきみお)

所属: 高知大学理事 (教育担当)・副学長

TEL & FAX (088) 844-8721

E-Mail fukami@kochi-u.ac.jp

出身地: 京都市

専門: 海洋微生物生態学・海洋環境保全学

趣味: ○うまいものを食べながら酒 (純米酒・麦芽100%
ビール) を飲むこと・・・浅酌 (せんしゃく)

○音楽 (バッハ・ブラームス・中島みゆき・ZARD等)
聞きながら長距離ドライブをすること

○地図を見ながらあちこち旅すること

○登山・軟式野球・写真・アユ釣り その他





高知大学の概要



○学部5(人文, 教育, 理, 医, 農)+土佐さきがけプログラム

・・・学生数約5,000人

○大学院1(総合人間自然科学研究科)

・・・院生数約620人

修士課程・・・6専攻(人文社会科学, 教育学, 理学,
医科学, 看護学, 農学)

博士課程・・・3専攻(応用自然科学, 医学, 黒潮圏総
合科学), 愛媛大学大学院連合農学研究科

○教員数・・・約700人(附属学校園を含む)

○職員数・・・約940人





高知大学の基本的な目標



(第2期中期目標・中期計画前文より)

高知大学は、人と環境が調和のとれた共生関係を保ちながら持続可能な社会の構築を志向する「環境・人類共生」(以下「**環・人共生**」)の精神に立脚し、地域を基盤とした総合大学として教育研究活動を展開する。教育では、**普遍的で幅広い教養を持った専門職業人を養成**する。研究では、南国土佐を中心とした東南アジアから日本にかけての黒潮の影響を受ける地域、すなわち**黒潮流域圏の特性を活かした多様な学術研究を推進**する。もって地域社会の課題解決を図り、その成果を国際社会に発信する。



高知大学の人材育成基本目標



1. 幅広い教養と高度で実践的な専門能力を身に付けていること.
2. 地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できること.
3. 地域が直面する諸課題を自ら探求し、学際的な視点で考えられること.
4. 「環・人共生」の精神に立ってその解決策を提案できること.

「高知大学概要」より





「土佐さきがけプログラム(TSP)」とは

高知大学の教育・研究実績や特色を活かした上で、従来の学部・学科等のカリキュラムから独立した、時代を先駆ける高知大学独自の教育プログラム。

土佐さきがけプログラムでは、関連する様々な分野を横断的かつ総合的に学ぶ独自のカリキュラムが準備されており、幅広い知識(基礎力)や、それらを組み合わせて考える力(応用力)を身につけ、現代社会が抱える課題の解決に積極的に取り組む社会のリーダー……

すなわち幕末の志士・坂本龍馬のように、時代の一步先を進む人材の育成を目指す。



TSPの特徴



- 特色に合わせて、**専攻分野**をある程度**限定**，
DPは明確
- そのコースのDPに合わせて、カリキュラムを**部
局横断的**に編成
- 平成24年度から
 - ・**グリーンサイエンス人材**育成コース・・・学士(理学)・修士(学術)
 - ・**国際人材**育成コース・・・学士(学術)
 - ・**スポーツ人材**育成コース・・・各主専攻の学士
- 平成25年度から
 - ・**生命・環境人材**育成コース・・・学士(学術)





TSPコースの種類

(平成24年度開設)

グリーンサイエンス人材育成コース

(AO入試Ⅱ 募集人員5名)

国際人材育成コース

(AO入試Ⅰ 募集人員10名)

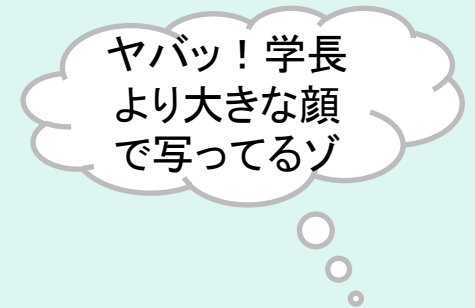
スポーツ人材育成コース

(※副専攻 募集人員10名)

(平成25年度開設)

生命・環境人材育成コース

(AO入試Ⅱ 募集人員10名)



私



学長

高知大学土佐さきがけプログラム専用教室設置式
平成24年4月19日(木)



グリーンサイエンス人材育成コースとは



設置の目的と育成する人材像

化学を基盤とし、環境に配慮した技術開発・学際研究(グリーンサイエンス研究)を通じて、国際的に通用する高度な専門知識や技術を身につけた、環境問題や資源問題などの解決に貢献できる人材を育成することを目指します。

教育の特色

- 化学を総合的かつ体系的に履修して化学の基礎を身につけ、少人数で多くの研究実験を行い、科学者としての技量を高めます。
- 入学後の早い時期から、高知大学で実施されている最先端の研究に参加し、課題探求能力や問題解決能力を高めます。
- 学部で4年間学んだ後は2年間の大学院修士課程へ進学することを前提とし、学部から大学院まで、6年一貫の特別なカリキュラムの中で、広い知識と高度な技術を習得します。

アドミッション・ポリシー(求める学生像)

地球環境を取り巻く諸問題を化学的にとらえて解決しようとする意欲や、人類の発展のためにみずから積極的に化学を学ぼうとする意志があり、探究心旺盛な学生を求めます。

人材育成への応用

高知大学「土佐さきがけプログラム」

過去の研究成果

特別研究プロジェクト
「環境調和型物質変換プロセスの構築によるニューマテリアルの創成」
(2005-2008)
(論文212編、特許39件)

主な成果

- アスベスト無害化処理方法
- バイオマスからのグルコース製造方法
- 環境化学物質除去によるアレルギー予防法
- フッ素系溶媒可溶性蛍光色素
- 貴金属ナノ構造体作成フィルム
- 藻由来の抗腫瘍性化合物の製造法
- 魚類の病原性細菌類の駆除剤及びその駆除方法

科学者・研究者としての

総合力
実践力
基礎力

環境負荷
低減技術

・生命共生
・環境保全
・物質循環
・資源再生

グローバルな
視点を有する
高度専門職業
人・研究者の育
成

エネルギー・資源・食糧・環境問題

社会的諸問題

グリーンサイエンス人材育成コース

グローバルな視点を有する高度専門職業人の育成



グリーンサイエンス人材育成コース

グリーンサイエンス人材育成コースのカリキュラム

修士(学術)

修士課程

専門科目(30単位)
専門科目8単位
特殊科目2単位
必修科目6単位
ゼミナール4単位
特別研究10単位

世界に羽ばたこう!!

- 海外インターンシップ
- GS特論
- 学術論文作成セミナー

高度専門職業人としての実践力

社会的問題の把握

科学者としての総合力

教育の連続性

学士(理学)

学士課程

専門科目(72単位)

必修科目58単位

基礎分析化学(2), 基礎有機化学(2), 基礎無機化学I(2), 物理化学(2), GS特別講義I(2), II(2), 科学英語(2), 分析化学(2), 有機化学I(2), 基礎無機化学II(2), 物質平衡論(2), 構造生物化学(2), GS実験I(2), II(2), 専門情報処理演習(2), 無機・分析化学演習(2), 有機化学演習(2), 物理化学演習IB(2), 化学英語ゼミナール(2), 無機・分析化学実験(2), 有機化学実験(2), 物理化学実験IB(2), GS実験III(2), IV(2), 科学者倫理学(1), 知的財産論(1), GS課題研究(8)

選択科目14単位

化学の基礎はばっちり!

- 科学者倫理
- 知的財産論
- GS課題研究
- GS実験 I II III IV
- GS特別講義 I II

化学者としての基礎力

少人数教育
研究の動機づけ
早期研究室配属

初年次科目12単位・教養科目22単位・共通専門科目18単位

2年生から配属
(通常は3年2学期)



グリーンサイエンス人材育成コース の入試

AO入試Ⅱ（センター試験を課す）（H25年度までは推薦入試Ⅱ）

1. 出願資格

○現役または1浪で学校長の推薦

○標定平均値3.8（数・理は4.3）以上

2. センター試験：3教科5科目（25年度までは5教科7科目）

3. 個別学力試験：口頭試問を含む面接



国際人材育成コースとは



コースの内容を説明する前に・・・



“国際化”とは？

グローバル人材を多数輩出し，従来の国家や地域の垣根を越えて国際社会で活躍する(できる)こと

では**グローバル人材**とは？



“グローバル人材”とは？



- 外国語（特に英語）が話せる人？
- 何度も外国に行ったことがある人？
- 外国に住んだことがある人？
- 外国人の友人がいる人？
- ナイフとフォークが上手に使える人？

じゃないよね！



大学の“国際化”とは？



- 英語の授業を増やすこと？
- 外国人教員を増やすこと？
- 留学生を増やすこと？
- 留学する日本人学生を増やすこと？
- 世界基準のカリキュラムを作ること？
- 秋入学に変えること？

だけではないよね！



中教審答申における「国際人」とは？



(平成23年1月、「グローバル化社会の大学院教育」)

欧米のみならずアジアを含む諸外国の大学と連携し、日本人・外国人学生の垣根を越えた交流を通じた協働教育により、語学力を含む**コミュニケーション能力**や、**異文化**を理解し多文化環境下で新しい価値を生み出す能力を備えた人材

(平成24年8月、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」)

我が国が生み出した固有の価値を異なる文化的・言語的背景を持った人々に発信できる能力、異なる世代や**異なる文化**を持った相手の考え方や視点に配慮しつつ**意思疎通**ができる能力を持った人



“異文化”って何だ？



- 世の中を自分の所属する方としない方の二つに分けたとき、自分が所属する側が“自文化”，しない方が“異文化”
- “異文化”（他人・外国等）を理解するためにはまず“自文化”（自分・自国等）を知る必要あり
- 我々はいったいどれくらい日本のこと（歴史・伝統文化・日本語etc.）を知っているのだろうか？！





本当のグローバル化とは

異文化を尊重しながら自らのアイデンティティを保ち、自国の文化を語る人間力を備えること。外国語を使って語るに足りる事を自らの中に持つこと

(資生堂名誉会長 福原義春氏)





真の「国際人」とは

1. まずは“自文化”を知り，誇りを持ち，
2. “異文化”を理解し，
3. 両者の違いを認識した上で，
4. 異文化の相手を尊重し，
5. 協働できる人材

アメリカ人は「国際人」か？！



国際人材育成コースとは



設置の目的と育成する人材像

英語・中国語・日本語などを駆使し、高い国際コミュニケーション力とともに、文化的・歴史的背景による価値観の違いを乗り越えて自文化と異文化を理解する心を持ち、国際社会の発展に貢献できる人材の育成を目指します。

教育の特色

- 日本人学生と外国人留学生が同じプログラムの中でともに学ぶことで国や文化の違いを超えて相互理解をめざす姿勢を身につけます。
- プログラム前半の2年間では語学力の向上と異文化理解に重点を置き、後半の2年間では国際経済に関する専門知識を中心に学びます。
- 日本人学生の場合は海外協定校への留学や海外インターンシップ、外国人留学生の場合には国内留学や国内企業でのインターンシップを行い、グローバル化の進む社会で活躍できる実践力を身につけます。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

- (1) 英語、中国語、日本語等の語学に興味があり、それらを駆使して国際社会に貢献する意欲のある人。
- (2) 自文化と異文化をともに理解しようとする意欲があり、平和な人類の未来を創造することに関心のある人。
- (3) 上記の資質を活かして、国際的に活躍する意志のある人。

過去の実績、成果

高知大学「土佐さきがけプログラム」

アジア諸国からの留学生を受け入れ、
育成し、日本企業へ輩出

「アジア人財資金構想」
高度実践留學生育成事業
(過去4年間に14名の修了者)

外国人留學生の国内イン
ターンシップおよび就職支
援を継続する

自文化と 異
文化を
理解し、
国際的に
活躍する
人材の
育成

国際
人材
育成
コー
ス

カリフォルニア州立大学フレズノ校 安徽大学 ロモソプ初等中等高等学校
東国大学校 イェーテボリ大学 チェンデラワシ大学 コンケン大学
大学間協定校44 ・ 部局間協定校21
受入144名、派遣52名(最近5年間の実績)

短期留学を含めた平成20年度実績
受入110名、派遣122名(全国第2位)

日本人留學生の海外留学を
活性化する

さらなる留學生
派遣先大学を
開拓中

海外協定校との 交換留学制度

帰国留學生同
窓会ネットワー
ク設立

留學生の受入・帰国後
のケア体制の確立

各学部の留學生教育により
多くの国際的人材を輩出

社会のグローバル化

異文化理解マインドを持ち、中国語・英語・日本語を操り、経済の知識を駆使して、国際機関・国際企業で活躍する国際人の育成



学士(学術)



国際人材育成(IEP)コース

国際人材育成コースのカリキュラム

【選択】
国際関係論、大衆文化論、環境文化論 など

【必修・選択必修】

IEP国際インターンシップ、卒業論文

言語

IEPアカデミック英語、IEPビジネス英語
IEP中国語、IEPビジネス中国語
英作文 I・II、英会話 I・II
英語学特講、英語学基礎演習
IEP議会討議法、IEP英語コミュニケーション論
IEP対人コミュニケーション論
英語パブリック・オーラルコミュニケーション I
中国語オーラルコミュニケーション
中国語オーラルコミュニケーション中級
異文化間コミュニケーション論

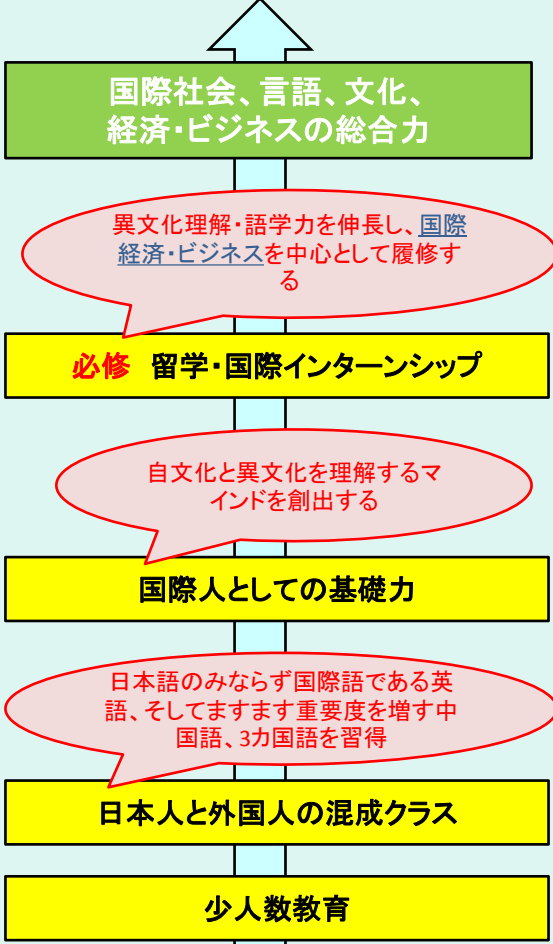
文化

日米異文化間コミュニケーション論 I・II
日米異文化間コミュニケーション論演習 I・II
比較文化論、言語文化論
アジア文化論、異文化理解
英米文化論

社会・経済

経済学各論、世界経済論
中国経済社会論、法律学特講
アジア経済社会論、アメリカ経済社会論
環境経済学、経営学、競争戦略論
経済法 I・II、商法 I など

社会調査法、情報科学 など



初年次科目10単位、教養科目24単位、共通専門科目18単位

国際人材育成コースの入試



AO入試 I（センター試験を課さない）

1. 日本人学生

- 小論文（英語or中国語の問題文を読み、「英語及び日本語」、あるいは「中国語及び日本語」で論述
- グループディスカッション（英語）
- 面接

2. 外国人学生

- 小論文（英語or日本語の問題文を読み、「英語及び日本語」、あるいは「中国語及び日本語」で論述
- グループディスカッション（英語）
- 面接





高知大学では

スポーツを専攻する学生以外で，全国大会等で活躍したり，生涯にわたってスポーツに関わる学生が多数存在しており，彼らが地域のスポーツ振興に活躍



スポーツ人材育成コースとは



人文学部・教育学部(生涯教育課程スポーツ科学コースを除く)・理学部の推薦入試Ⅰの合格者の中から、それぞれの学部での学びに加えて、入学後に副専攻プログラムとしてスポーツ人材育成コースで学ぶことを希望する人を対象に選考します。プログラム修了者には卒業証書とは別に認定証が授与されます。

設置の目的と育成する人材像

所属する学部・学科等の専門分野の学びとスポーツ活動を両立させ、さらに副専攻としてスポーツを科学的に学ぶことで、卒業後はさまざまな職業で活躍しながら、職場でのスポーツの活性化やスポーツを通じた地域貢献を行える人材を育成することを目指します。

教育の特色

- それぞれの所属学部・学科等の専門分野に加えて、副専攻として運動時の心身の働き、メカニズムについてスポーツ生理学、スポーツ心理学、トレーニング論を通してスポーツ科学の理論について学びます。
- トレーニング実習や専門実技演習Ⅰ～Ⅲを通して実践について学び、競技力の向上を目指します。
- スポーツ指導やコーチング理論、地域スポーツクラブの運営について学び、競技の指導能力や地域のスポーツ振興に貢献できる力を身につけます。

アドミッション・ポリシー(求める学生像)

高校期の生活において学業とスポーツ活動の両立に努め、高いレベルの協議実績を有している者であり、大学入学後も所属する学部・学科の専門分野の学業に励むとともに競技活動を継続し、卒業後もスポーツ活動に積極的に関わっていくことに強い意欲を持っている人材を求めます。

過去の実績、成果

高知大学「土佐さきがけプログラム」

スポーツ専攻以外の
の学生

全国大会での活躍
・サッカー・陸上
・エアロビ・相撲等

学業とスポーツ活動両立に
強い意欲を持つ人材

新しいプログラムの導入

学部・学科等の専門分野の
学びとスポーツ活動の両立を
推進する

副専攻

スポーツ科学を
学ぶ

競技力向上と職場や地域
スポーツに貢献できる人材
育成

スポーツ人材育成コース



スポーツ人材育成コース

授業科目表 (平成24年度以降入学生対象)

| 授業コード | 分類 | 授業科目名〔副題〕 | 単位数 | | 担当教員 | 履修年次 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|-------|------|-----------------------|-----|----|--------|------|----|----|----|------|
| | | | 必修 | 選択 | | | | | | |
| | 競技力 | トレーニング実習 | 1 | | 非常勤講師 | 2 | 1 | | | 新設 |
| | 競技力 | 専門実技演習Ⅰ | 2 | | 各種目担当者 | 1 | 1 | 金 | 5 | |
| | 競技力 | 専門実技演習Ⅱ | 2 | | 各種目担当者 | 2 | 1 | 金 | 5 | |
| | 競技力 | 専門実技演習Ⅲ | 2 | | 各種目担当者 | 3 | 1 | 金 | 5 | |
| 47046 | 地域貢献 | スポーツ指導演習 | 2 | | 野地照樹 | 4 | 2 | 集中 | | |
| 45106 | 指導 | スポーツ指導論 | 2 | | 野地照樹 | 2 | 2 | 火 | 2 | |
| 45104 | 競技力 | スポーツ栄養学 | | 2 | 大坪豊寿 | 2 | 1 | 月 | 3 | |
| 45111 | 競技力 | スポーツ心理学 | | 2 | 矢野宏光 | 2 | 1 | 水 | 1 | |
| 47002 | 競技力 | トレーニング論 | | 2 | 駒井説夫 | 2 | 2 | 火 | 3 | |
| | 競技力 | 専門実技 | | 1 | 各種目担当者 | 1~2 | | | | *1 |
| | 競技力 | スポーツ医科学論 | | 2 | 非常勤講師 | 3 | 1 | | | 新設 |
| 47010 | 競技力 | バイオメカニクス | | 2 | 竹林秀晃 | 2 | 2 | 火 | 4 | |
| 47004 | 競技力 | 救急処置法 | | 2 | 近森文夫 | 2 | 2 | 金 | 4 | |
| 45102 | 競技力 | スポーツ運動学 | | 2 | 13 | 神家一成 | 1 | 2 | 木 | 4 |
| 45103 | 競技力 | スポーツ生理学 | | 2 | 駒井説夫 | 2 | 1 | 火 | 3 | |
| 45107 | 競技力 | スポーツ健康論 | | 2 | 本間聖康 | 1 | 1 | 木 | 4 | |
| | 競技力 | テーピング実習 | | 1 | 非常勤講師 | 2 | 2 | | | 新設 |
| 47048 | 競技力 | 個人スポーツ実技〔体づくり運動〕 | | 1 | 神家一成 | 1 | 2 | 金 | 4 | 隔年開講 |
| 47003 | 指導 | コーチング論 | | 2 | 野地照樹 | 3 | 2 | 月 | 3 | |
| 47045 | 指導 | スポーツ自然科学関係科目〔コーチング演習〕 | | 2 | 非常勤講師 | 2 | | 集中 | | |
| 45101 | 地域貢献 | 生涯スポーツ論 | | 2 | 新任 | 1 | 1 | 月 | 4 | |
| 47033 | 地域貢献 | スポーツ社会学 | | 2 | 新任 | 2 | 2 | 月 | 1 | |
| 計 | | | 11 | 13 | | | | | | |

*1専門とする実技（陸上、バレー、バスケットボール、剣道、サッカー、器械運動）

スポーツ人材育成
コースの副専攻カ
リキュラム

学士(各主専攻学
部)+副専攻修了証

スポーツ人材育成コースの選抜方法



- ① 人文学部・教育学部（生涯教育課程スポーツ科学コースを除く）・理学部の**一般入試・推薦入試の合格者**（H25年度までは推薦Ⅰのみ）
- ② 高校時の**スポーツ実績**（都道府県代表で全国大会出場経験かそれと同程度，原則として入学後に大学内で競技継続）
（サッカー，バレーボール，バスケットボール，硬式野球，陸上競技，体操競技，剣道，ダンスの8種目）



生命・環境人材育成コースとは

(平成25年度開始)



設置の目的と育成する人材像

人間を含むすべての生物の生命活動とそれを支える環境諸科学を領域横断的に教育し、生命を次世代へ繋ぐために必要な諸課題を解決できる人材を育成する。

教育の特色

- 自然・社会・人文科学の一般常識に精通し、それを一般市民に説明できる諸能力を身につける。
- 文理融合型教育・自然体験型実地教育・英語理解力強化教育を実施
- 社会的リーダー育成を目的に、公務員養成や高校教諭免許取得(社会か理科)を目指す。
- 入学直後より専門研究を意識させ、学会等への参加を促す。

アドミッション・ポリシー(求める学生像)

- (1) 生命活動とそれを支える環境に関連した「理科」と「社会」に関する基礎知識を有する人。
- (2) 自分の考えを的確に伝えられる人
- (3) 学んだ知識や研究成果を地域社会の活性化につなげることに興味のある人。

生命・環境人材育成コースのカリキュラム



専門科目 (72単位)

卒業論文, 卒業論文演習 I・II
生命と環境 I・II, 生命・環境学集中実習
英文読解・理解力養成, 実践英語セミナー
研究室インターン実習 I・II・III・IV
産官学連携インターンシップ
有機化学, 無機化学, 分析化学, 生物化学,
栄養化学, 生物物理化学, 動物生理学,
微生物学, 微生物生理学, 応用微生物学,
微生物遺伝子工学, 分子遺伝学, 土壌学,
植物感染病学, 動物生産・繁殖学,
食品製造学, 食品分析学, 土壌環境科学
以上必修56単位

共通専門科目 (18単位)

物理学, 化学, 生物学, 地球科学の**概論**
から必修8単位
物理学, 化学, 生物学, 地学等の**基礎実験**
から必須2単位を含む

教養科目 (22単位)



学部学生の早い段階から学会へ参加

初年次科目 (12単位)



生命・環境人材育成コースの入試

AO入試Ⅱ（センター試験を課す）

1. 募集人数は10名
2. 出願資格
現役または浪人（何浪でもOK）
3. センター試験：5教科6科目
4. 個別学力試験：プレゼンテーションを含む面接





| 学部 | 学科・課程等 | 入学定員 | 募 集 人 員 | | | | | | | | | |
|------|---------------------|-----------|-------------|---------|---------|------------------|------------|-----------|--------------------------|----------------|--------------------------|---------------|
| | | | 一 般 入 試 | | A O 入 試 | 推 薦 入 試 I | 推 薦 入 試 II | 社 会 人 入 試 | 工 佐 さ き が け プ ロ グ ラ ム | | | |
| | | | 前 期 日 程 | 後 期 日 程 | | | | | (育 成 コー ス) (A O 入 試) | (推 薦 入 試 II) | (国 際 人 材) (育 成 コー ス) | (推 薦 入 試 I) |
| 人文学部 | 人間文化学科 | 94 | 59 | 5 | — | 30 | — | — | — | (2) | — | — |
| | 国際社会 コミュニケーション学科 | 83 | 38 | 10 | — | A選抜 20 B選抜 15 | — | — | — | — | — | — |
| | 社会経済学科 | 118 | 75 | 5 | 8 | 30 | — | — | — | (3) | — | — |
| | 計 | 295 | 172 | 20 | 8 | 95 | — | — | — | (5) | — | — |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 100 | 55 | 15 | — | — | 30 | — | — | — | — | — |
| | 生涯 教育 課程 | 芸術文化コース | 30 | 15 | 6 | — | 9 | — | — | — | — | — |
| | | スポーツ科学コース | 20 | 10 | 3 | — | 7 | — | — | — | (5) | — |
| | | 生活環境コース | 20 | 10 | 4 | — | 6 | — | — | — | — | — |
| 計 | 170 | 90 | 28 | — | 22 | 30 | — | — | (5) | — | — | |
| 理学部 | 理学科・応用理学科 | 270 | 数学 受験コース | 40 | 30 | — | 数学 分野 | 15 | 2 | — | (5) | — |
| | | | 理科 受験コース | 113 | | — | 理科 分野 | 50 | | — | | — |
| 計 | 270 | 163 | 30 | — | 75 | — | 2 | — | — | (5) | — | |
| 医学部 | 医学科 | 110 | 65 | — | 30 | — | 15 | — | — | — | — | — |
| | 看護学科 | 60 | 30 | 10 | — | 20 | — | — | — | — | — | (2) |
| 計 | 170 | 95 | 10 | 30 | 20 | 15 | — | — | — | — | (2) | |
| 農学部 | 農 学 科 | 170 | 101 | 20 | — | — | 一般 | 4 | — | — | — | (8) |
| | | | | | | | 専門 | 2 | | | | |
| | | | | | | | 一般 | 6 | | | | |
| | | | | | | | 専門 | 2 | | | | |
| | | | | | | | 一般 | 4 | | | | |
| | | | | | | | 一般 | 2 | | | | |
| | | | | | | | 一般 | 2 | | | | |
| | | | | | | | 一般 | 2 | | | | |
| | | | | | | | 一般 | 7 | | | | |
| 専門 | 3 | | | | | | | | | | | |
| 一般 | 7 | | | | | | | | | | | |
| 専門 | 1 | | | | | | | | | | | |
| 一般 | 3 | | | | | | | | | | | |
| 専門 | 2 | | | | | | | | | | | |
| 計 | 170 | 101 | 20 | — | 4 | 45 | — | — | — | (8) | | |
| 合 計 | 1075 | 621 | 108 | 38 | 216 | 90 | 2 | (10) | (5) | (10) | | |

学生定員の拠出元

社会のニーズ

科学・技術立国

国際化・国際人

スポーツ立国

高知大学「土佐さきがけプログラム」

- 所属学部・学科にとられず、文系の学問と理系の学問をバランスよく学びたいなあ...
- 世界的な視点と地域的な視点の両方から問題を考えられる人になりたいなあ...

出でよ平成の龍馬！

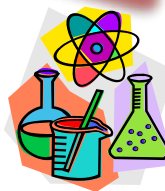
平成24年度スタート

学士課程(4年)

修士課程(2年)

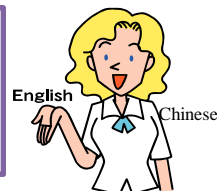
グリーンサイエンス人材(6年一貫教育)

- ◆高度な技術者
- ◆研究者



国際人材

- ◆国際企業人
- ◆国際機関や政府機関で働く人



スポーツ人材(副専攻)

- ◆地域のスポーツ振興
- ◆地域スポーツのコーチ・アドバイザー
- ◆各種審判員



平成25年度スタート

生命・環境人材

- ◆大学院進学・研究者
- ◆国・自治体・NPO職員
- ◆各種企業人

第二の龍馬を目指す入学生

特別教育プログラム

- 関連する様々な分野の学問を、横断的・総合的に学ぶカリキュラム
- 高知大学の特色と実績を活かした分野

育成される人材像

1. 学際的で分野横断型の知識と思考能力を持った、時代の一步先を進む人材
2. 異分野の知識・技術を組み合わせ、対応することで、地域及び国際問題や環境問題等の解決に貢献できる人材

TSPでの特徴的な授業



大学基礎論（一例）

○大学で学ぶことの意義，卒業後の自分の将来像などについてイメージする。

○グループワークでの演習を通して、相手の話をよく聞き，理解し、自分の考えを分かりやすく伝える基本的双方向コミュニケーション能力やプレゼン能力を向上させる。





2012 年度 TSP 大学基礎論 実施計画(確定版)

2012.2.20. 深見公雄

| | | 予定 | 担当 | 主題 | 内容 |
|----|-------|-----------|----|-------------------------------------|---|
| 1 | 4月12日 | 講義 1 | | オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ○授業計画の説明(各コース担当者) ・グループ分け, チームビルディング, 大学共通の履修オリエンテーション等 ○高知大学の教育および TSP の位置づけ(深見) ・高知大学とはどんな大学か(教育理念, 基本目標, 沿革, 特色, 教育組織構成, 海外協定校紹介, 主な卒業生, TSP とは? etc) |
| 2 | 4月19日 | 見学 | | | ○メディアの森・学内施設・朝倉キャンパス見学 |
| 3 | 4月26日 | 講義 2 | | 「大学で学ぶとは?(TSP で何を学ぶか)」 | <ul style="list-style-type: none"> ○大学とは何か(学長, 各コース担当者) ・学長からのメッセージ ・大学で学ぶことの意義・目的 ・大学における教育内容・方法, 高校までの学びとの違い |
| 4 | 5月10日 | 講義 3 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○高知大学の教育における TSP の位置づけ(吉倉, 各コース長) ・総合教育センターの役割と TSP との関わり ・TSP のめざすもの, TSP での具体的な履修内容 ○大学生活に関する注意(岩崎(泰)) ・メンタルヘルス, フィジカルヘルスに関すること |
| 5 | 5月17日 | 演習 | | | これまでの講義を聴いての大学(教育)に対する感想を基にしたディスカッション |
| 6 | 5月24日 | 演習 | | | グループワーク(自らの在学中および卒業後の進路のイメージ創造) |
| 7 | 5月31日 | 演習 | | | グループワーク(自らの在学中および卒業後の進路のイメージ創造) |
| 8 | 6月7日 | プレゼンテーション | | | グループワークでの結果報告(自らの在学中および卒業後の進路のイメージ創造) |
| 9 | 6月14日 | 振り返り | | | 前半のまとめ・レポート作成指導 |
| 10 | 6月21日 | 講義 4 | | | ○法人化後初代学長の立場からみた高知大学と TSP に期待すること(相良) |
| 11 | 6月28日 | 講義 5 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○各理事の立場からみた高知大学と TSP に期待すること(1)(受田, 櫻井) ・「地域社会はどんな貢献を求めているか」(地域連携担当副学長) ・「国際社会における高知大学の役割と意義」(国際担当理事) |
| 12 | 7月5日 | 講義 6 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○各理事の立場からみた高知大学と TSP に期待すること(2)(小槻, 渡邊) ・「大学での研究:感動との出逢いを求めて」(研究担当理事) ・「社会における国立大学と高知大学の位置づけ」(財務担当理事) |
| 13 | 7月12日 | 演習 | | グループワーク(自らは何をしたいのか, どのように社会貢献ができるか) | |
| 14 | 7月19日 | 演習 | | グループワーク(自らは何をしたいのか, どのように社会貢献ができるか) | |
| 15 | 7月26日 | プレゼンテーション | | グループワークでの結果報告(社会貢献への目標, 高知大学への提言等) | |
| 16 | 8月2日 | 振り返り | | 総括・レポート作成指導(各コース担当者) | |



学部×学科×性別

| 人文学部 | 男 | 女 | 計 |
|---------------|----|----|----|
| 人間文化学科 | 2 | 5 | 7 |
| 国際社会コミュニケーション | 5 | 22 | 27 |
| 社会経済学科 | 14 | 19 | 33 |
| 計 | 21 | 46 | 67 |

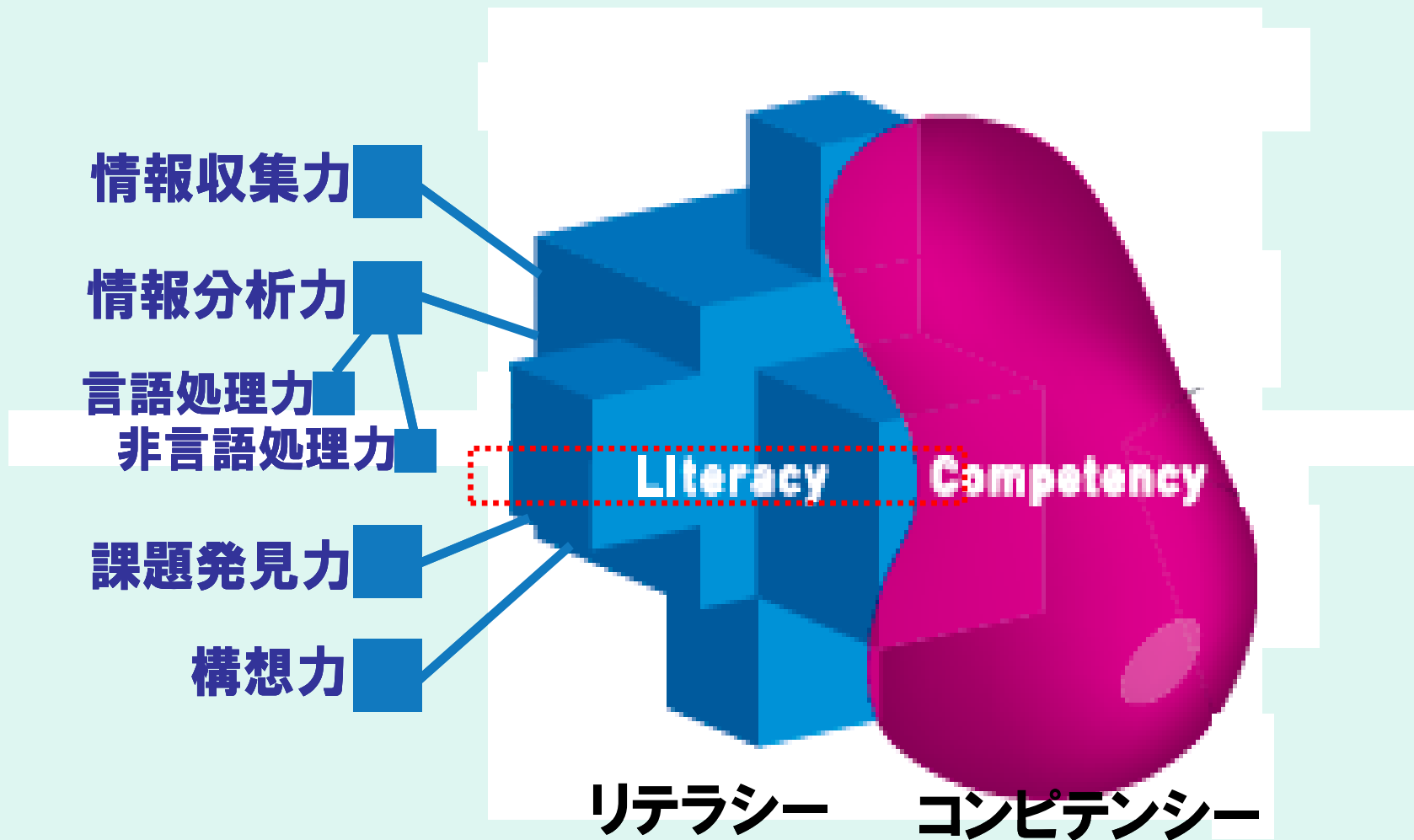
| 理学部 | 男 | 女 | 計 |
|-----------|-----|----|-----|
| 理学科・応用理学科 | 133 | 53 | 186 |
| 計 | 133 | 53 | 186 |

| 教育学部 | 男 | 女 | 計 |
|------------|----|----|-----|
| 学校教育教員養成課程 | 61 | 40 | 101 |
| 生涯教育課程 | 19 | 39 | 58 |
| 計 | 80 | 79 | 159 |

| 医学部 | 男 | 女 | 計 |
|------|----|----|-----|
| 医学科 | 72 | 37 | 109 |
| 看護学科 | 8 | 52 | 60 |
| 計 | 80 | 89 | 169 |

| 農学部 | 男 | 女 | 計 |
|-----|----|----|-----|
| 農学科 | 89 | 75 | 164 |
| 計 | 89 | 75 | 164 |

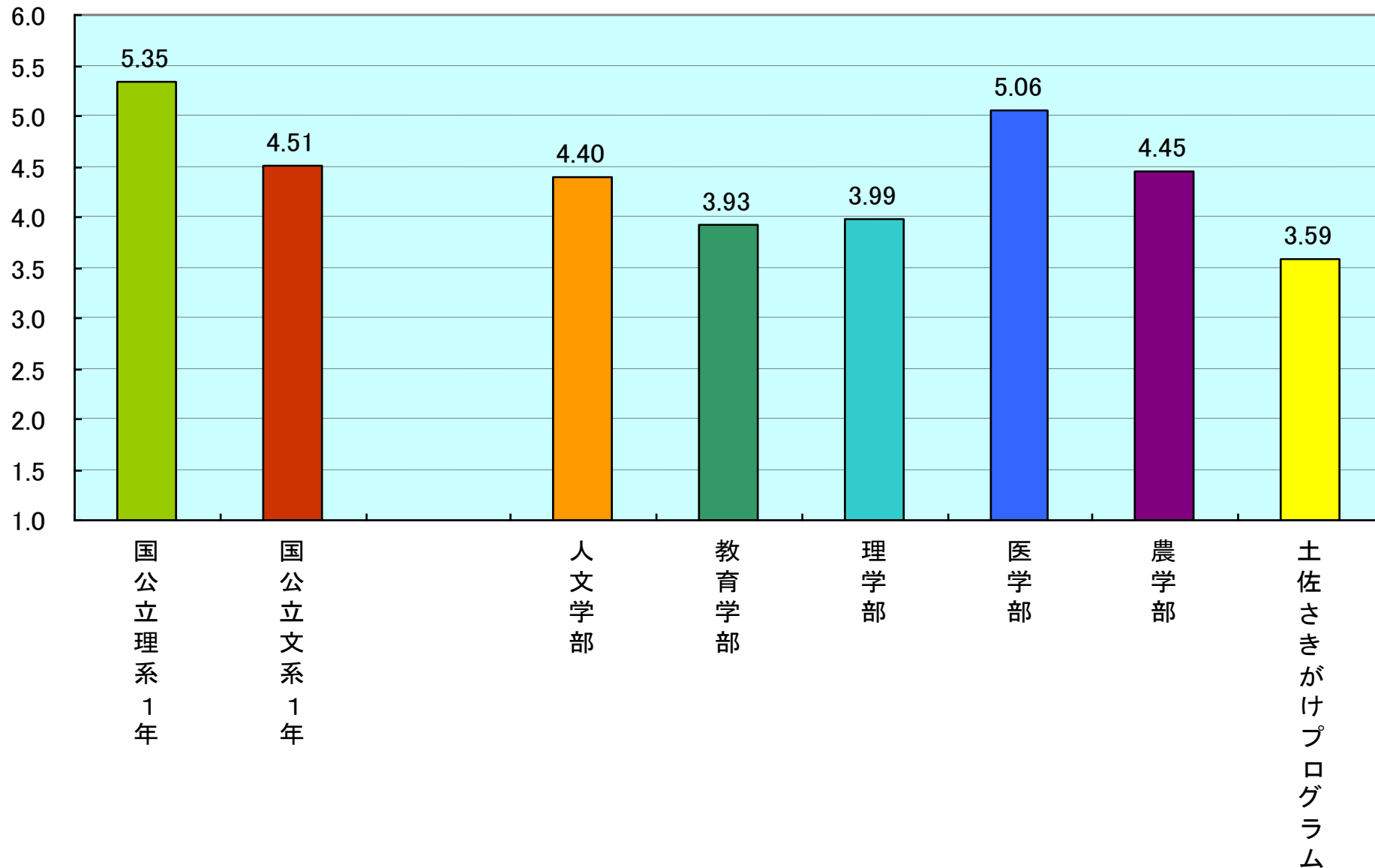
| 土佐さきがけプログラム | 男 | 女 | 計 |
|------------------|---|----|----|
| グリーンサイエンス人材育成コース | 1 | 3 | 4 |
| 国際人材育成コース | 4 | 15 | 19 |
| 生命・環境人材育成コース | 3 | 1 | 4 |
| 計 | 8 | 19 | 27 |



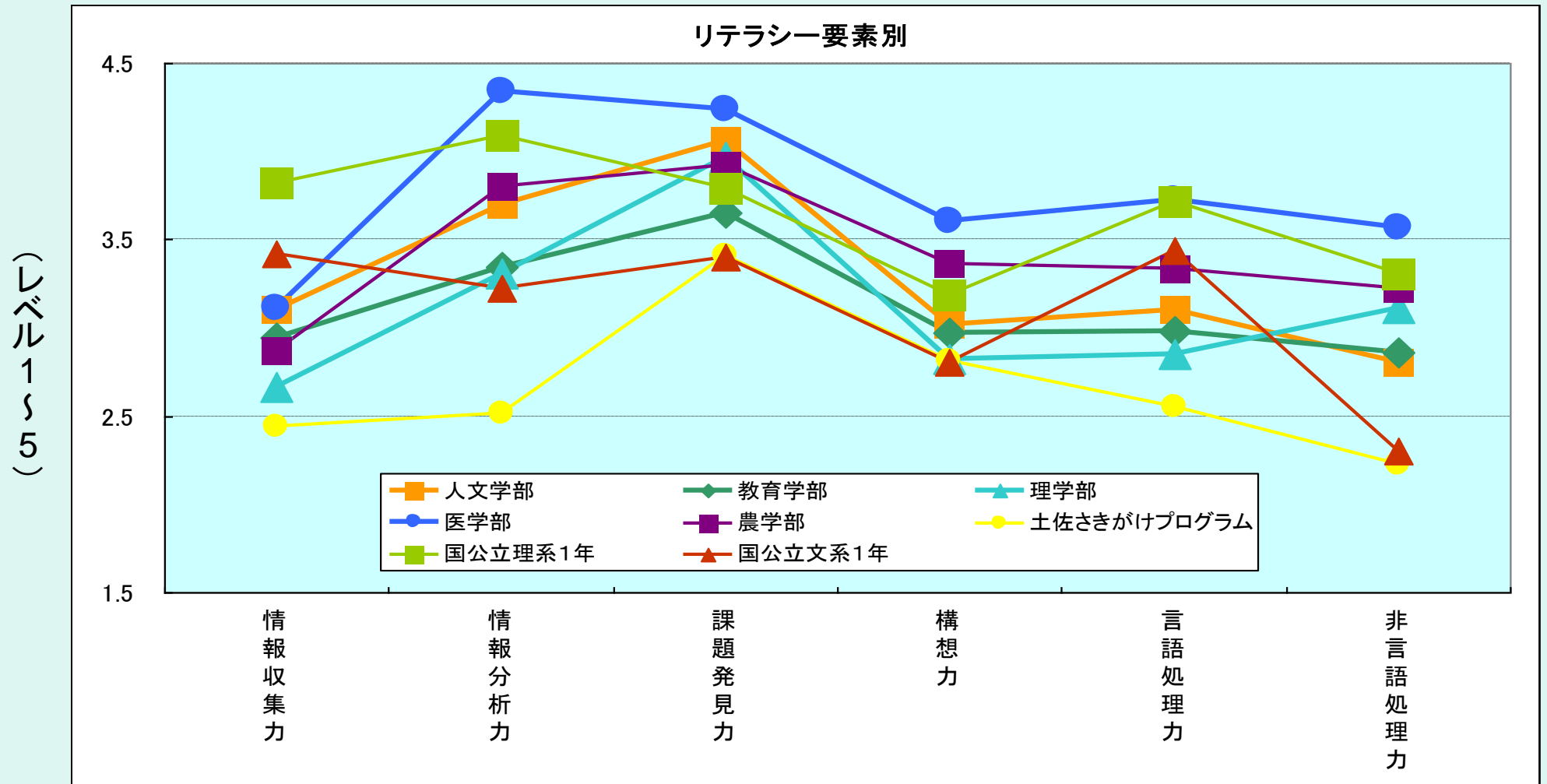
判定レベルに見る全体傾向(リテラシー総合)

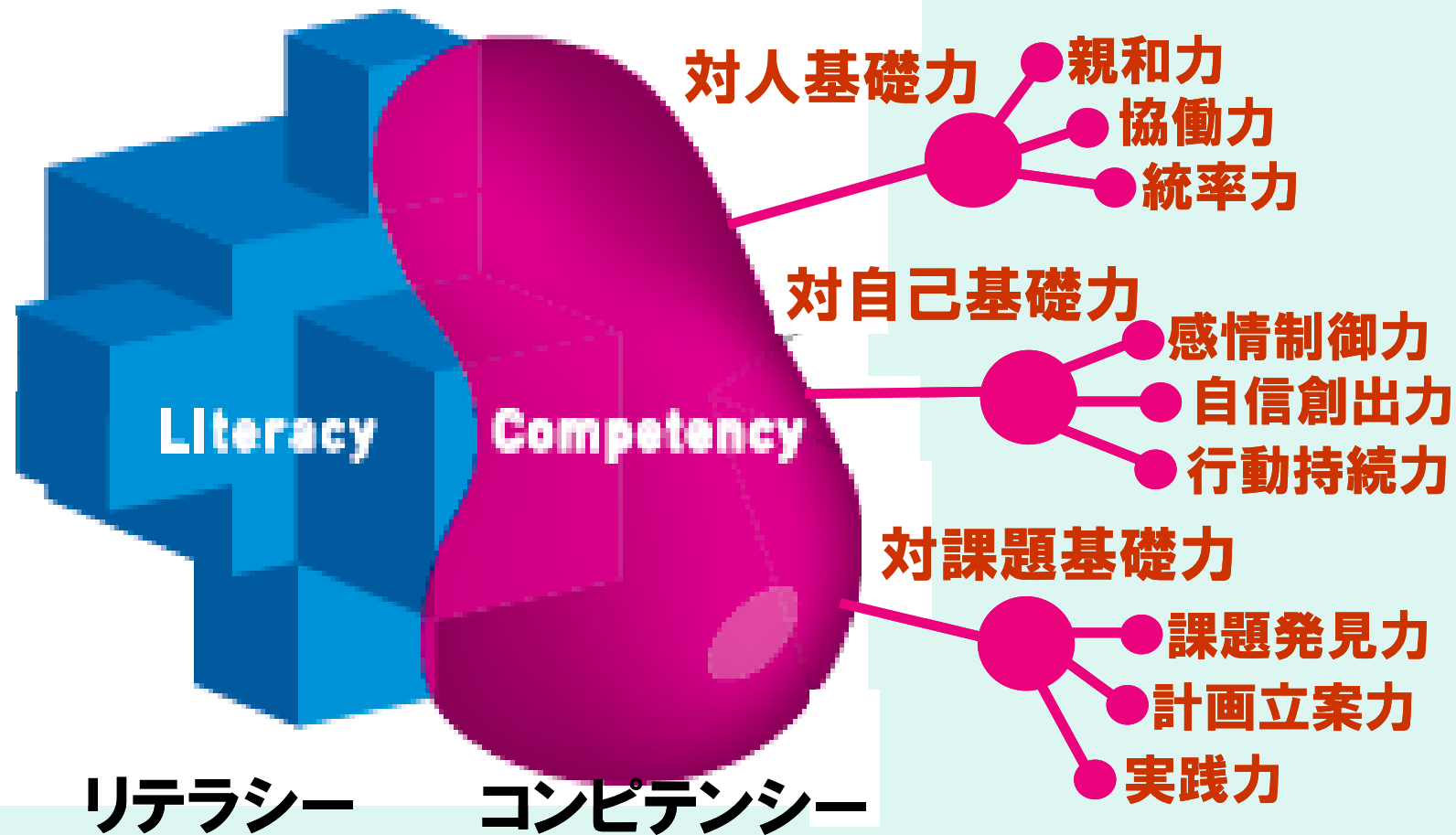


リテラシー総合



判定レベルに見る全体傾向(リテラシー要素別)

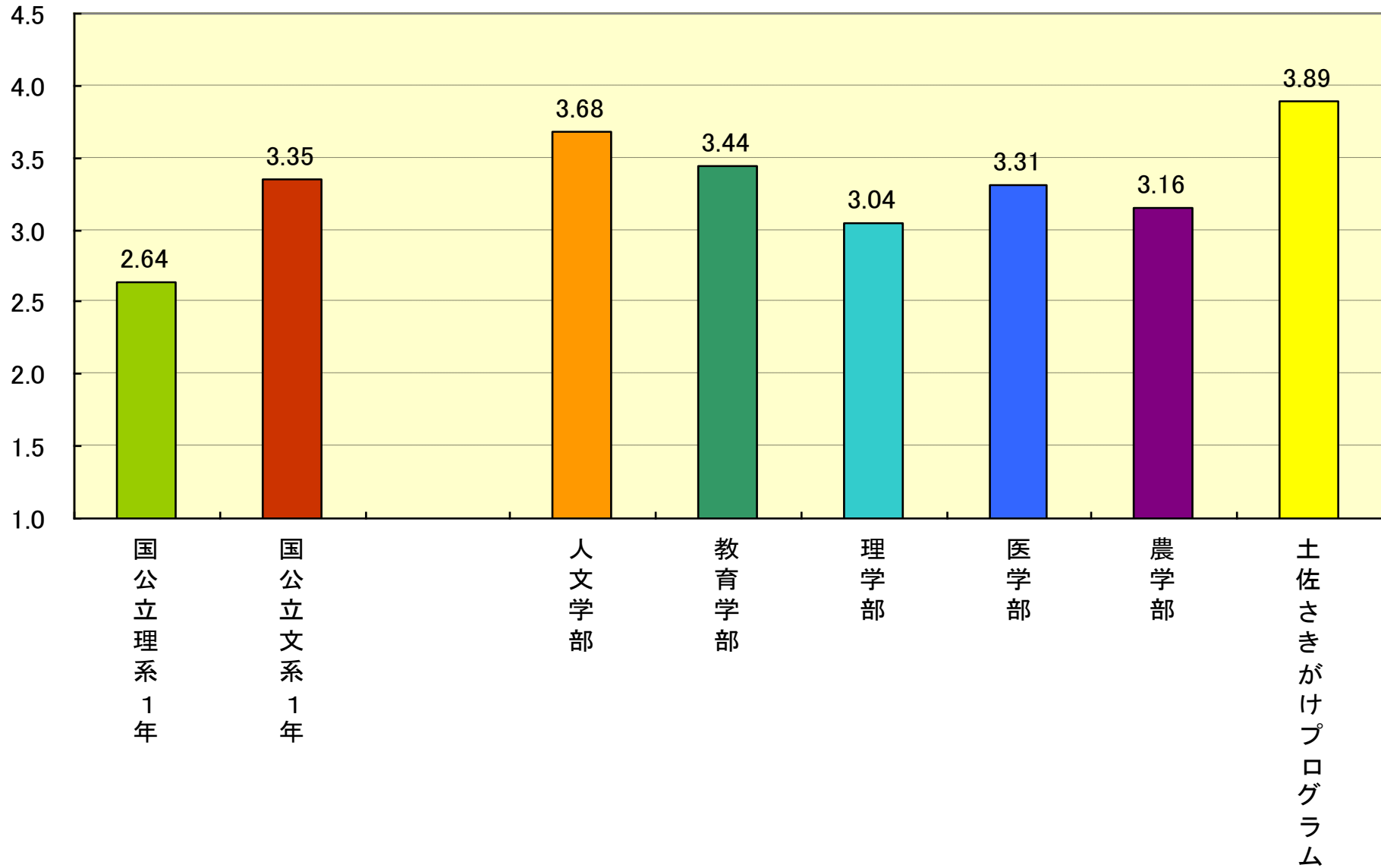




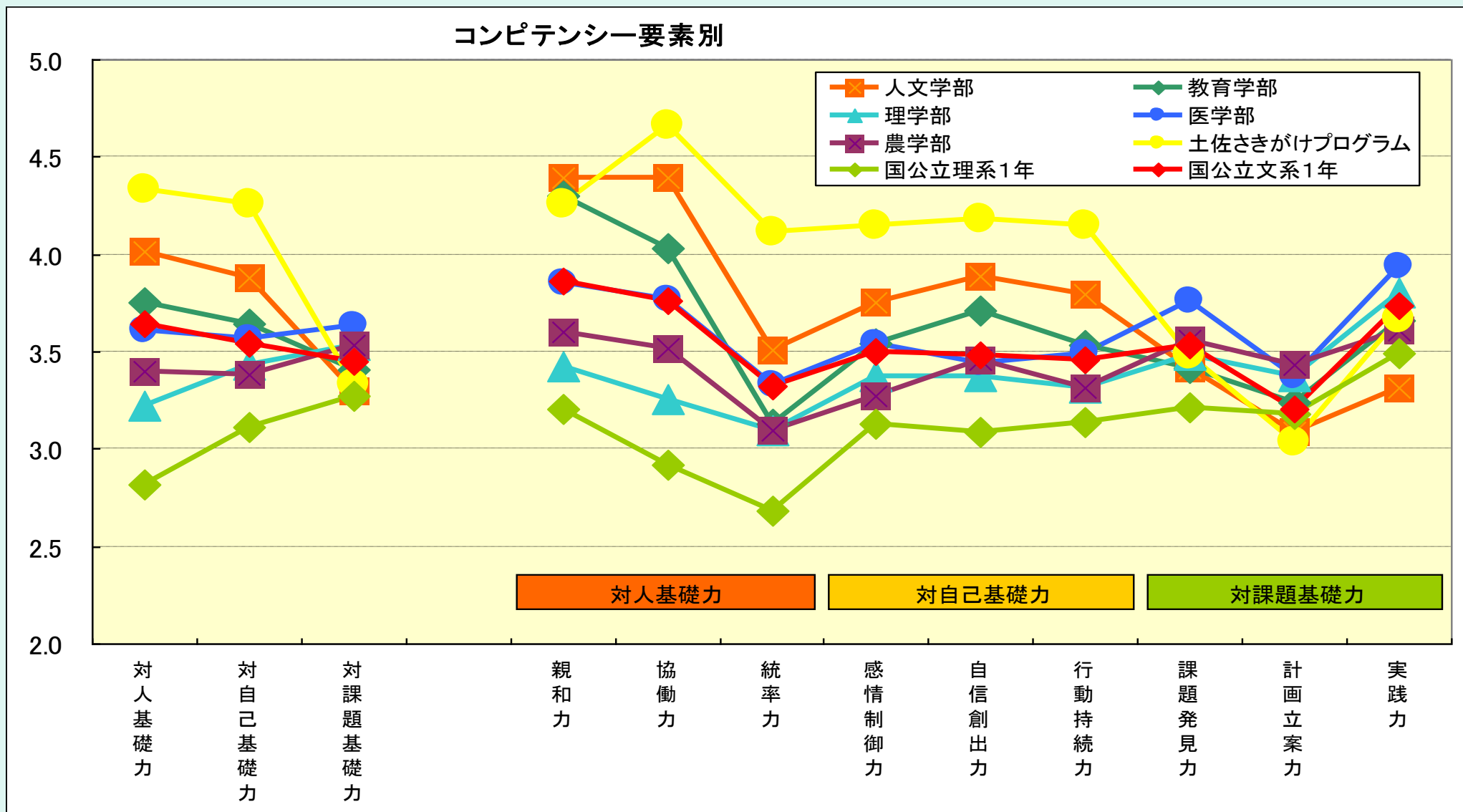
判定レベルに見る全体傾向(コンピテンシー総合)



コンピテンシー総合



判定レベルに見る全体傾向(コンピテンシー要素別)



レベル分布



全体

リテラシーでは、「情報収集力」、コンピテンシーでは、「統率力」の伸長が望まれる。

| | | | | | |
|---------|-----|-----|------|------|-----|
| コンピテンシー | 7 | 0.4 | 0.7 | 0.1 | 0.1 |
| | 5,6 | 2.9 | 11.0 | 6.1 | 2.3 |
| | 3,4 | 4.8 | 18.3 | 14.5 | 3.1 |
| | 1,2 | 3.4 | 17.6 | 12.1 | 2.6 |
| | 1,2 | 3,4 | 5,6 | 7 | |
| リテラシー | | | | | |

スコア ..最もボリュームの多いセル
スコア ..10%以上のセル

土佐さきがけプログラム

リテラシーでは、「情報収集力」、「情報分析力」、「言語処理力」の伸長が望まれる。

| | | | | | |
|---------|-----|------|------|-----|-----|
| コンピテンシー | 7 | — | — | — | — |
| | 5,6 | 7.4 | 22.2 | 7.4 | — |
| | 3,4 | 14.8 | 18.5 | 3.7 | 3.7 |
| | 1,2 | — | 14.8 | 7.4 | — |
| | 1,2 | 3,4 | 5,6 | 7 | |
| リテラシー | | | | | |

スコア ..最もボリュームの多いセル
スコア ..10%以上のセル

TSPがなぜいいか



- カリキュラムが分野横断型であること
- 人数が少ないこと.
- 全く“毛色”の違う複数のコースがごちゃ混ぜなこと.
- 大学が資金的援助をする留学や学会活動等の機会があること.
- 他大学の同世代の学生や先生と交流の機会が多いこと.



“異文化”交流できること

(そのためには自文化を十分知ってないとダメ!)

研究航海(学術調査)と一緒に!!



TSP学生に対するインセンティブ(動機付け)



GSコース

- 修士課程の授業料半額免除
- 「海外インターン」の渡航費、宿泊費他

国際人材コース

- 「海外(又は国内)研修・インターンシップⅡ」の渡航費及び海外留学保険加入料

スポーツ人材コース

- スポーツ競技大会、審判講習会、指導者研修会等の参加費、交通費及び宿泊費
- トレーニングに関わる諸経費

生命・環境コース

- 3年・4年生次の国内学会、国際学会への参加旅費等補助



TSP実施上の問題点・検討課題



1. 既存の教育組織との**差別化**
2. 担当教員の**負担増**
3. 必ずしも担当教員全員が実施に**情熱**があるわけではない
4. 学内**予算**等の重点配分に対する抵抗
5. 学生人数の割に**コスト**(予算・労力)がかかる
6. 学生の居室等**設備の新設・整備**が必要
7. 高校生や進学担当教員等に**理解されにくい**





これからの時代

世界を見渡し、地域を支え、世の中の
一歩先を進む人材を育成したい！

高知大学をよろしくお願いします。

月の名所：桂浜